次年度所属委員長活動方針

クラブ奉仕委員会： 今井克義君

クラブ奉仕が充実してこそ、社会、職業、国際奉仕の活動が生きてくる。充実させる為には何だろうか？基本的には、まず、参加することと思う。例会はもちろん、委員会活動、他の各種の行事にできるだけ、まず参加をする。参加することにより、各々なりにロータリーが理解できる。人間関係が広がってくる。親睦が深まる。その為に委員会活動としては、参加し易い形づくり運営を考えましょう。増強、拡大はもちろん、ロータリーの永遠のテーマであろうが、個人的にはたとえロータリークラブとして少人数ではあっても、活発に活動する楽しいクラブづくりが先づあろうと考える。

出席委員会： 大野新吉君

6月12日出席委員であります。村山、石川両氏と現委員長の羽賀氏より特別出席して致き、次年度の出席委員の基本方針を語り合い、委員全員の合意のもとで左の要項を是非理事会でお取り扱い致きたく、お願い申し上げます。私達北クラブ員は三クラブの中でも一番若く、又仕事面においても第一戦の方々が大半である為、毎週の例会に欠席されるのも多いと思われます。この欠席の理由いかんはともかく、出席するのが義務であるのは当然で御座いますが、その当然の事が私共、入会の時、頑固たる意志のないまま入会した様に思います。しかしながら入会して年月が経過しますと、欠席するのが何か恥ずかしい、そんな気持にもなってまいりました。出席率を高める事は、親睦・プログラム両委員会の大なる協力がなければ、当委員会はその陰の仕事ですので、成果ははたせませんが、是非両委員会の活動の活性化を高め、1人でも多くの会員が出席出来るものにして致きたいと思います。その両委員の活躍のもとで、出席委員は側面で又は内面的の方策をもって出席率を高めるべく努力をしたいと思います。出席率の悪い会員への電話、手紙はもとより、人間欲のない人はいません。その面をもっと深く掘り下げて行こうと思います。まず平成元年7月の第1例会であります四日の日をスタートにしまして1年表彰、2年、3年～10年表彰と毎年行い又、その出席が表面的にわかる様ロータリーバッヂをそれに合わせて変えて行ったら欠席は絶対少なくなって行くものと思います。側であまり言い過ぎますと、退会にもなりかねませんしここは、本人の自覚に待つものとその気にさせる欲の面をもう少し考えた方が良いのではないかと思われます。ともかく、人の事よりまず自分が出席出来なければ話しにも何にもなりません。出席委員になったこの期を大切にして100%出席したいと思う今日頃々でございます。

プログラム委員会： 丸山誠一君

企画・理念…自分の信念を持ち、失敗を決して恐れず、まわりにいる人は、自分に持っていないものを持っている。　方針…・クラブに寄与するプログラムを作成する。・例会を楽しく、有意義なものとするために、努力、工夫する。・活力ある例会を演出するため、夜例会、早朝例会など開始時間の変化、又、例会時間、セレモニー内容を変化させ、例会の活気を高める。　具体的プログ

◇朗読奉仕つわぶき会代表棒典子さんより丁重な礼状が届いております。

ニコニコボックス：

吉田秀治君　(三条南クラブ)今年度最後のメークです。来年度もお邪魔させて下さい。

平松利朗君　桐生の地区協議会出席の皆さん。遠路のところ、また早朝からの参加で大変ご苦労様でした。

角田宏衛君　小林君、近藤君、杉浦君の卓話に期待します

山口龍二君　よきパートナーにめぐまれ優勝することができました。ありがとうございます。

阿部誠一郎君　ソウル大会に行き、ウォーカーヒルでサイコロでもうかった1部1万ウオーンをボックスに。

落合益夫君　久々のホームクラブの例会でほっとしています。

石川勝行君　今日は、丁度誕生日です。朝一番子供に言われて、もう1年過ぎたかなぁとうれしいやら……。

卓　　話： 近藤勝男君

私の職業（スクリーン印刷業）の生い立ち。日本で初めて企業化されたのは、大正の初期で、万国氏と言う人が、アメリカで修得したスクリーン印刷技術を持ち帰り、東京の品川に「プロセス印刷工芸社」を設立開業したのが創始である。その後この会社から独立して、30社ぐらいで戦前のスクリーン印刷需要を賭ったので大方繁栄していたものである。主たる生産品は広告用品が大方を占めた。キャラコに印刷した立看板・大型店のけんすいタレ幕・レーヨン小旗、帆布の前掛け・集金袋・帽子等に紋様、名入で印刷はすべて手作業によるものでした。第2次大戦後は、暫しの空白期間後、昭和30年の前半頃より、スクリーン印刷の技法を教授、啓蒙する会社が出現し、ここで技術を修得した人達が全国に分散開業し、戦前業者の開業と相まって、急激に業者の増加をみた。その頃より石油化学製品が市場に出初め、これら塩化ビニール等プラスチック製品の印刷技法としてのスクリーン印刷の需要は加速に増大することになる。ここに来て各種の技術開発と機械化である。即ちシルクに替わってナイロン・テトロン糸のスクリーン出現、加えて樹脂による感光乳剤の開発は、写真製版技術を画期的に向上させ、精密製版を可能とし、一挙に工業部品の印刷へとシェアを拡大することになる。当業界はその設備、技法等の相違により商業系分野と工業系分野とに二分され、この様にグラフィックアーツから電気・電子・自動車産業に至る広範囲な分野に於いて、日本高度成長期にスクリーン印刷技術が果した役割は決して少ないものではない。

臨時総会：

1．次年度会費値上げの件（10周年積み立て）

2．低出席率のメンバーについての件

6／10(土)　於桐生　クラブ会長エレクト研修セミナー報告：　会長エレクト　平松利朗君

吉野ガバナー・エレクト新年度の基本方針。新年度のＲＣのテーマ〝ロータリーを楽しもう！〟は享楽の意でないのは勿論のこと〝ロータリーの奉仕を楽しもう！〟というように理解して欲しい。また、新年度はロータリーが大きく変わる年である。まず共産圏のポーランドやハンガリーにもロータリークラブが設立され、ソ連も西側のロータリークラブと打診を始めている。次にＲＣの定款、細則の中から「男子」の文字を削り、いよいよ全世界のロータリークラブに女性の入会への道を開いた。しかし、如何にロータリーの規模が大きくなっても、土台は１つ１つのクラブである。会長はすべからく会員に対し「ロータリーの楽しみ」を与え、知り合いを広めてもらって欲しい。また、会員には親切に、丁ねいな言葉で、感謝の気持ちで接し、励んだ方には惜しみない賞賛をおくって貰きたい。―と要望があった。・ロータリー財団現況　ポリオ寄金が始まって以来、ロータリー財団資金が激減している。ポリオが１人、年8,000－を超えようなら是非、財団の「無条件寄附」の方に回わして貰いたい。・出席報告理況　如何なる親睦も奉仕も出席がなければ始まらない。因みにわが北クラブは256地区内で悪い方から７番目であった。しかし、何んとなく出席して100％よりも、たとえ85％でも密度の濃い方が望ましい。・「月信」について　新年度より、内容を簡単明瞭を旨とする。また、ガバナー訪問の順番で、ロータリークラブについてその区の産物・名所・話題など、また、自クラブの誇る奉任活動など、写真入りで紹介していくので協力願いたい。・パネルディスカッション「ロータリー財団の需要を問う」（４パストガバナー）財団資金がパンクの危機にさらされていることに鑑み、最近の財団の活動状況と資金の窮乏状態について説明があり、日本も戦後の困難な時に諸外国からいろいろの援助を受けたことを思いおこし、拠出に特段の努力を願いたい―と３パネラーから説明があった。・1989～90年度、ＲＩ会長賞プログラム別記の通り紹介あり。

6／11日(日)　於桐生　地区協議会報告

次年度会長幹事会：　平松利朗君

これまでのＲＩのテーマは全てアクティブのものばかりだったが、新年度は〝楽しもう〟と柔らかな中にも励ましを感じる。例会の場は「会議・討論の場」と考えず、「楽しみながら修練を積む場」と理解して欲しい。また、会員増強については、情報、外食等、第３次産業の成が目覚ましい。時代の慌れにおくれないよう、新らしい企業の会員の発掘にも意を出いてもらいたい。

分科会№1「会長部会」：　平松利朗君

会員に対する指導の基本は、まず、①ロータリーを知ってもらう（自クラブのこと、ロータリー情報など）。それから、②ロータリーを好きになってもらう。―しかし、決して急がず、徐々に！―ということが肝要。最後に、③ロータリーを楽しんでもらう。―だが、しかし、落語や万才を楽しむのとは違い、座ってみているだけではダメで、「活動して楽しむ」姿勢が必要。１つ１つ楽しみの段階を踏んで、楽しみを深めていってもらいたい。そして、その楽しみの中で「奉仕」を行なえば、それは山彦となって応えてくれるだろう。その「山彦」をクラブ員全員で楽しんで欲しい。最後に吉野ガバナー・エレクトの言葉で印象深かったものを紹介します。昔から、よき指導者、名君といわれる人は、「行け！」と言わずに「行こう！」という。また、「やれ！」と言わずに「やろう！」という。私も「我が意を得たり」ということで、この気持、この精神で次年度を勤めさせて頂こうと思います。

分科会№4「職業奉仕部会」：　笹原勝治君

安藤リーダーが冒頭リクルート事件に触れ、江副氏がロータリアンで職業奉仕について学んでいたらどうなっていたかと、ユーモアをまじえて「企業は社会の公器」である点を強調された。サブリーダーからも、1987年のＲＩ方針の変更で、今までロータリアン個人が職業を通じての奉仕が課題であったものが、クラブとロータリアンの共同活動に定義変更となった旨の解説と、四つのテストから見た職業奉仕の体験例が報告された。中でも、故松下幸之助の著書から「金儲けは奉仕の礼金である」の言葉を引用し、広義の奉仕を解説していた事が参加者の共感を呼んでいた。

分科会№5「社会奉仕、高齢者問題、ローターアクト」：　木宮　隆君

・社会奉仕…家庭という字の「庭」は家と社会との接点を意味する。つまり、どんなに家庭（身分個人）が豊かであっても社会性のない豊かさは無意味である。社会奉仕を積極的に推進することで、自分自身を浄化し、より充実した人生を送るというのが社会奉仕の理念である。・高齢者問題…老人を取りまく環境は勿理的（経済、医療etc…）にはかなり改善された状態である。しかし、精神的な面では多くの問題があるようである。老人の孤独が核家族化の風潮の中で、増々クローズアップされてきている。アメリカに於ける老人との別居は若い世代と老人がスープのさめない距離（適当なへだたり）をおいてうまくつきあうことを意味しているが、日本の場合の別居は、ていの良い追っ払いとなっているケースが多い。老人とのつき合い方を考え直すと同時にボケ老人対策の意味からも老人に働く機会、社会参加の窓口を開く努力が必要。・ローターアクトクラブ…ローターアクトの発生基盤はアメリカでは大学（第13はノースカロライナ大学）であるが、日本の場合は地域となっている。ロータリーの精神を若い世代に伝える接点としてローターアクトの活性化は必要である。第256地区に於ては、1974年に村上ローターアクトが誕生して以来、ローターアクトの提唱がない。ローターアクトクラブの拡大と若い世代へのロータリー精神の普及を考えなくてはならない。

分科会№7「国際奉仕部会」：　斎藤　正君

主眼、諸国の歴史を理解し、教育、文化等を通し国際間の交流を図り、世界平和を目指す。達成のためには、１．青少年の交換。２．先進国から発展途上国の社会奉仕計画への援助。３．個人レベルでの国際奉仕につながる渡航の機会での積極的なメイクアップ。４．同業者（団体）同志の交流に依る友好親善。５．姉妹、友好クラブとの提携に依ってお互いの奉仕活動を図る。ボランティア活動委員会の設置を検討中。金、物の援助支援から医療、教育等、人の派遣（ＲＩ費用負担）で、ボランティア活動を展開する。